# テーマ報告　2003年

１．植えっぱなしは自然再生につながるかー滝野公園景観林の事例からー

孫田敏・丹羽真一（（社）北海道造園建設業協会）

今村教雄（札幌開発建設部滝野すずらん丘陵公園事務所）

篠宮章浩（国土交通省国土計画局）

　滝野公園に造成された景観林は、造成後20年で樹冠層が8～9ｍほどに達し、周辺の自然林と調和した景観をみせるようになってきた。一方林分構造や林床植生をみると、樹冠層が単純であることや稚樹・林床植物の出現が少ないことなどわかる。自然林化という観点から評価すると、必ずしも高い評価を与えることができない。ここでは、植栽後20年目の生育調査の結果に基づき、計画時の植栽配置や今後の光環境の改善方法などについて検討した。

２．渡島大島における植生復元の試み

多田和樹・笠康三郎（日本データーサービス（株））

名和欣哉（函館開発建設部函館港湾建設事務所）

　現在、渡島大島では避難港建設が進められており、それに伴い法面造成等の地形改変が行われた。しかし、全島が「オオミズナギドリ海鳥繁殖地」として天然記念物に指定されるなど、非常に貴重な自然を有していることから、植生復元が求められている。そのため、平成４年から植生復元を試み、平成15年まで毎年追跡調査を行ってきている。現在のところ、土砂が安定している法面ではムラサキモメンヅルとエゾキリンソウを中心として植被は回復しているが、周辺植生とは構成種が異なっている。また、土砂が不安定な法面では植被の回復も遅れているため、土砂を安定させる簡易法枠を平成12年度に設置した結果、徐々に植被が回復してきている。

３．自然植生復元の進め方についてー富良野川上流砂防工事跡地における植生試験・調査の事例―

鈴木玲（雪印種苗（株））

渡辺修（（株）さっぽろ自然調査館）

孫田敏（（有）アークス）

原田憲邦（北海道旭川土木現業所）

　十勝岳の砂防工事跡地において、現地周辺で自生植物の採種を行い，短期間(3～26ヶ月)に育成した苗を現地導入して５年間追跡調査した。ミヤマハンノキ，ハイマツ，マルバシモツケでは育苗期間によらず定着し，イソツツジ，シラタマノキでは当年苗以外では定着率に大きな違いはなかった。ただしアカエゾマツではほとんど定着しなかった。また自然植生復元の進め方は，(1)対象地および周辺の自然環境の把握，(2)緑化計画の立案，(3)植生材料の収集･準備(育苗方法の検討･採種･種子精選･種子保存または播種･育苗)，(4)現地導入方法の検討，(5)施工，フォローアップ調査，導入方法再検討と整理された。